



二宮中学校 汝鳴り

にのみや学園二宮町立二宮中学校 学校だより
7月16日号（発行随時）
学校ホームページ URL
<https://ninomiya-junior-high-school.edumap.jp/>

～1学期を振り返って～

◎入学式～1年生の成長～

4月7日(月)午後、123名の生徒が全員出席し、入学式を執り行うことができました。

式辞の一つとして、「多くの人とのかかわりの中で考える」ということを話しました。



そんな1年生たちもその後3か月あまり経過した現在、新しい仲間が加わり124名となりました。教科ごとに変わる先生との学習、部活動や生徒会活動など、

小学校での生活から大きく変わった日常生活を通じて、身も心も少し大きくなつたように感じます。

これからの中学校生活において、困ったり悩んだりしたときは、身近にいる多くの先生や先輩に相談しながら解決していく術を身につけていくこと、「ちょっとの失敗」は経験としてその後の人生に生かしていくよう考えることを願っています。

◎受容的な学級づくり～日頃の授業から～

子どもたちが笑顔で安心して学べるクラスを目指し、「個性を尊重しながら支え合う温かな学びの場」を創るために、次のことを大切にして取り組んでいます。

① 安心できる居場所づくり

- ・「みんなが良くなることは、自分も良くなることにつながる」という理念を掲げています。
- ・子ども同士が互いに注意や支援を自然にできるよう、思いやりや相互理解を育んでいきます。
- ・教職員は日々の小さなサインにも気を配り、個別に丁寧に対応するよう努めています。

② 日々の授業で育む「学び合い」と「助け合い」

- ・授業は単なる学びの場ではなく、「信頼関係を築く場」でもあると考えています。
- ・互いに「教える・教わる」を通して、理解や視点の広がりと深まりを強めています。

・個別学習と協働学習を組み合わせ、誰一人取り残されない学びを実現していきます。

③ 違いを認め、共に生きるインクルーシブ教育の推進

- ・障がい・性別・学力・家庭環境など、さまざまな違いを「成長の要素」として受け止めています。
- ・特別な支援が必要な生徒には、個別対応のみならずクラス全体で支え合うよう努めています。
- ・「どうすればみんなが快適に過ごせるか」と一緒に考える姿勢を育成していきます。

④ 地域・保護者皆様とともに

- ・トラブルも学びの機会として、子どもたち自身で話し合いながら解決していきます。
- ・保護者・地域・学校職員が密に連携し、子どもを支える体制を強化していきます。

このように、「受容的な学級づくり」は、日々の学校生活を通じて、子ども一人一人が自分らしく輝き、ともに支え合いながら成長する環境づくりを進めています。ぜひご理解とご協力をお願いします。

◎学校運営協議会の取組(その1)

～戦時の体験を聞く～

3年生は社会の歴史学習で、第二次世界大戦について学びました。小学校でも同様に学んでいますが、中学校では世界的な視野も含めながら、さらに広がりと深まりをもって学んでいます。



この日は、学校運営協議会の計らいにより、「戦時下の二宮を記録する会」の語り部3名の方々から戦争体験についてお話をいただきました。

3名のうち、終戦時に5歳だった男性は、戦時中、お兄さんが兵隊に召集されていったとのことでした。幼いながらも「きっと生きて帰ってこないのかな」と思ったそうです。

また、終戦時に小学校6年生だった女性には、当時、学校で授与された証書や終戦の日の新聞記事、二宮駅が機銃掃射を受けた弾痕の箇所や当時の小学校の写真など、様々な

資料もご提供いただきました。

最後に、終戦時に8歳だった男性には、満州で暮らした様子や生々しい「敵兵」の雰囲気を伝えていただきました。

今年は終戦から80年となります。当事者の話を直接聞くことがだんだん難しくなってきている中、本当に貴重な機会をいただきました。

◎学校運営協議会の取組(その2)

～期末テスト前の学習相談～

本校では以前から、定期テスト前に生徒からの学習相談を受ける機会を設けています。

学校運営協議会が設置されて6年余りとなりますが、それに伴って、地域の方々も学習相談に関わってくださるようになりました。小一時間ではありますが、放課後の落ち着いた学習環境で学習を1~2週間コツコツ積み上げていくのは「塵(ちり)も積もれば山となる」ですね。



学習相談に来る生徒たちは、質問や相談が主な目的ですが、中には帰宅前にひと頑張りしたくて立ち寄る子、友達の勉強する姿に触発されて頑張れる子など、様々なスタイルでラストスパートをかけていました。

◎連日の暑さに清涼感満点!!

PTAからのご厚意により5月の上旬、校舎1階の中央昇降口に冷水器1台を寄贈していただきました。



実はほかにも年代物となった機種があるので、故障などにより安心して使える状況ではありませんでした。暑さの厳しい昨今、休み時間の気分転換や体育の授業、部活動後のどの渴きにとてもうれしい1台です。

通常、足元のペダルを踏んで上向きに噴射するタイプが多いと思われますが、この機種は水筒に汲みやすくするためのノズルとレバーが上部にあり、冷水器から離れたところでも水の清涼感を味わえるところがステキです。

◎中郡中学校総合体育大会

6月28日(土)を皮切りに、大磯町・二宮町4中学校の運動系各部に所属する生徒たちが、日頃のトレーニングやチームワークの成果をもって競い合いました。(陸上競技の関係種目は9月に予定されています。)

各会場では、頭脳判断はクールに、心は熱く仲間同士励まし合いながら積極的なプレーが繰り広げられました。チームとして中ブロック大会に進出が決まった部、個人戦で優秀な成績を収めた生徒たちには、これから熱中症や日々の健康管理に気を付けながら練習に励んでほしいと思います。

文化部の生徒たちにとっては、「汐鳴祭文化の部」での楽曲演奏・作品展示を最終目標として、その過程にある作品作りに力を入れるところです。吹奏楽部については、7月25日(金)に南足柄で開催のコンクールに出場します。

学校の部活動に所属していない生徒たちにとっても、趣味や特技、あるいは希望する進路の実現のための取組など、各自目標をもって生活してほしいと思います。

◎校外学習で育まれるもの

本校では今年度、1年生が横浜に、2年生が鎌倉に、3年生が奈良・京都へ「修学旅行」に出かけました。



小学校の遠足にも実施の目的がありましたが、中学生の校外学習は、より「学び」の色合いが濃いものとなります。また、3年間を見通し、「根拠を持った意思決定」「小集団活動の責任感」「活動のテーマ性」などねらう中で、徐々に生徒主体の場面が多くを占め、自律的に判断し行動することができるよう指導しています。

校内での学習活動でも調べたり話し合ったりまとめたりすることは日常的に行われ、力がついてきているところですが、そのようにして得た情報をもって校外に出ると、立地の広さ、複雑な時間の流れ、身の回りを行き交う人々の多さ・多様さなどによって、校内で想定していたことはうまくいかず、変更・調整などの判断を迫られることがあります。

1年間の教育計画はタイトであるものの、このような経験は、各教科の学習をしているだけでは得られない貴重なものとして、計画→実地→まとめに至るまで、しっかり時間をかけて取り組んでいます。

学校ホームページでは同様の記事をよりタイマーに掲載しています。手軽なアクセスのために右の二次元コードをご活用ください。

